

横浜栄区民吹奏楽団 活動のガイドライン

新型コロナウイルス（COVID-19）が蔓延し、緊急事態宣言や解除などを経っていますが、今後の活動を円滑に進める上で、今時点で考えられる対策を講じる必要があります。

これは、COVID-19 以外の感染症にも措置として必要なことであり、「新しい生活様式」の中で吹奏楽の活動をしていくべく、皆さんと共有させていただきます。

大前提として

- ・「誰もが感染しているかもしれない」という考え方で、「考えすぎ」「やりすぎ」で進めます。
- ・「何かあってからでは遅い」「自分たちの活動場所を守る」ということが、基本方針です。

■団の活動に参加する際には...

1. 参加可否判断

- ◆ 普段から自分の体調管理に気を付けて下さい。また、カラオケ、一部の飲食など三密になる場所をできるだけ避けて下さい。
- ◆ 発熱、発熱の兆候（熱っぽさ、寒気、倦怠感他）、咳、鼻水、味覚・嗅覚異常など、少しでも体調が悪いと感じたら練習を休んで下さい。また、同居家族にこのような症状がある場合も同様とします。発熱（37.5 度以上あるいはそれ未満でも自分の通常の体温より明らかに高い場合）、ある程度持続する咳や鼻水、味覚・嗅覚異常など症状がある場合、または、症状が治まっていたとしても、そのような症状の発症から 7 日間、症状が治まってから最低 3 日間が経過するまでは練習への参加を禁止します。ただし、PCR 検査または抗原検査(注 1)で陰性が確認された場合は参加を許可する場合があります。
- ◆ PCR 検査で陽性と判定された場合は当然練習への参加は禁止です。その場合の復帰判断は「感染対応フロー」によります。
- ◆ 新型コロナウイルスの濃厚接触者になった場合は、最終接触日から 5 日間経過するまで練習への参加は禁止します。ただし、最終接触日から 4 日目および 5 日目の抗原定性検査で陰性だった場合は、5 日目から練習への参加を許可します。
- ◆ いずれの場合も、パートリーダーを通じて速やかに団に連絡してください。

- ◆ また、上記三密環境への出入りの自覚がある場合も、その直後の練習への参加はお控え下さい。

2. 集合時

- ◆ 会場施設に入る際は必ず「マスク着用」し、施設に入ったらまず手洗いまたは手と指の消毒をお願いします。万一マスクを忘れた場合は、団で用意がありますのでお使い下さい。
- ◆ マスクは、活動終了まで演奏時以外は常時着用です。
- ◆ 集合時に検温を行い、体温が 37.5 度未満であることを確認します。万一 37.5 度以上の場合は練習には参加できません。
- ◆ 団でアルコール消毒器を用意しますので、必要に応じて使ってください。
- ◆ また、各自携帯用除菌スプレーまたはアルコール消毒ジェル、除菌ウェット・ティッシュなどを常備ください。

3. 練習前準備

- ◆ 機材車から機材を下ろします。
 - 機材車の中機材は、前週の練習から 1 週間経っていますのでウィルスが付着している危険はまずありません。(通常ウィルスは 72 時間以内で不活性化します。)しかし、気になる人また怪我を防ぐために使い人は団で手袋の用意がありますのでお使い下さい。手袋のあるなしに関わらず作業前と後での手洗いまたは手指の消毒をお願いします。
- ◆ 練習する部屋に入る際は、手を触れる部分の除菌を行います
 - 機材車作業と同時に、部屋内の「ドアノブ」「共用部分」「椅子等」を除菌します。その他、必要と感じる部分は除菌し対応します。(団用意の除菌スプレーとガーゼを使用します。)
- ◆ 机などの移動(必要な場合)、椅子・譜面台の配置、打楽器組み立て
 - 前後での手指消毒または手袋着用(+事後の消毒)をお願いします。
 - 椅子の配置は前後左右に可能な限り1.5m、最低でも1m離して下さい。それが無理な場合は代表または副代表に相談し、指示を仰いで下さい。距離の測り方は椅子の中心から中心までです。
 - 指揮者と最前列の奏者の間は最低1.5m以上離して下さい。

4. 練習中

- ◆ 自分の楽器を出す前に手がきれいであることを確認しましょう。

- ◆ 指揮者と打楽器奏者は練習中も常にマスクを着用します。管楽器奏者もしゃべる必要がある場合はマスクを着用しましょう。
- ◆ マウスピースだけで音を出すと唾液が飛び散ります。金管、木管に関わらず、マウスピースだけでの音出し、バズィングは禁止です。どうしても行う必要がある場合は、タオルで覆うなどの処置をして下さい。
- ◆ 金管楽器の唾抜きは息で圧力をかけず、重力で水分を出すだけにして下さい。十分抜けない場合は回数を増やして対処して下さい。
- ◆ クラリネット、フルート、ソプラノサクソなどは、水分が床に落ちないように頻繁にスワブを通して下さい。
- ◆ 金管、木管に関わらず、水分を床に落とさないようにタオル、新聞紙、ペットシートなどを各自で用意して下さい。水分を含ませた後は、ビニール袋に入れるなどして持ち帰り、洗濯または処分して下さい。
- ◆ 当然ですが、管楽器の共用は禁止です。打楽器は、可能であればスティックやマレットを共用しないようにして下さい。また、スティックやマレット以外でも楽器に触る部分が多いので、手の消毒を頻繁に行うことを心がけて下さい。
- ◆ 指揮者が交代する場合は、マイク類や指揮者譜面台の消毒を行います。
- ◆ 最低でも1時間毎に部屋の換気を行います。換気時間は、空気の流れ具合によって5分～10分程度とします。

5. 練習後

- ◆ 全員マスク着用して下さい。
- ◆ 使った機材で消毒する必要があると思われるものがあれば消毒します。(またすぐ使うものなど)
- ◆ 椅子など施設の備品を施設側の指示に従い消毒します。
- ◆ その他の注意点は練習前準備と同じです。

6. その他

- ◆ 時間待ちや休憩の時も密集しないように互いに1.5m以上距離を取りましょう。マスクなしでのおしゃべりは厳禁です。
- ◆ 1の「参加可否判断」でお願いした団への報告は、団内での感染を防ぐために大変重要です。故意に報告を怠った場合は団規約第9条4項「団および団員に対して利益を損ねる行為」として運営委委員会での審議対象になることもありますのでご注意ください。

上記の他、活動を進めていく中で「気付くこと」「こうした方がいいと思うこと」「この部分は大丈夫ではないかということ」は、随時共有してその都度メールリストや口頭で共有していきたいと思いますので、皆さんのお知恵をくださいますよう、よろしくお願いいたします。

■見学者の受け入れをする際には...

1. 見学希望メールに対する初回返信で「団の活動に参加する際には...」の内容を共有し、ご承諾頂ける方のみに参加することとします。
 - 見学者にも団員と同様のご準備をお願いする他、団で用意ある旨もお伝えし、安心感を持っていらして頂きたいと思います。

以上

注: 抗原検査とは、正式には「抗原定性検査キット」を使った検査です。検査に使えるのは「医療用」のみで「研究用」は不可です。検査は、原則として、2日連続1回ずつ計2回行い、2回とも陰性の場合に陰性とします。